ヤツを見ないで俺を見る

鷹奈山冬哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヤツを見ないで俺を見る

【Nコード】

N2843G

【作者名】

鷹奈山冬哉

【あらすじ】

ちよつとおかしな主人公御神哲郎^{みかみてつろう}は運命(?)の転校生に恋をするけど転校生のほうは…恋愛は薄くコメディーを濃くしたものです

中途半端なプロローグ（前書き）

作者の初作品なので見苦しい文があるかも知れません。

中途半端なプロローグ

はじめまして。俺は御神哲郎^{みかみてつろう}、青春を謳歌するお年頃の高校一年だ

「今日も暇だねえ」

そういつて話してくるのは俺の親友つばい木戸風我^{きとふうが}（15）

「ぼいってなんだオイ。しかも年をテレビの容疑者みたいにあらわすな。」

人の心にまでつつこむとは…

コイツなんかつつこみのセンスを感じるぜ。

「…ていうか暇だね」

「そうだな。可愛い転校生でもこないかな…」

ちなみにこれは俺の夢だ。

中学のときから自分をギャルゲ体質だと信じてどれだけまったことか…

可愛い幼なじみがいない俺には、転校生しかいないとずっと、まっ
ている。

「またそれかよ」

「あつ、先生来た」

「木戸、席につけ。さもなければ撃つぞ！」

我らが先生である大塚ティーチャーはいつもこんなんだ。

「実は君たちに言わなければならないことがある……」

教室がガヤガヤした。そういう俺もガヤガヤしたが

「実は……」

続く

「……できれんのかよー！」

ナイス突っ込み！

プロローグ完

「まあ転校生がくるっただけなんだがな。ちょっとびびったろ？」

「なんだあ、それだけかよ…ってなりかけたけど結構一大事じゃん！俺にとっただけど」

「ちなみに男子ども喜べ！女子ども残念！転校生は女子だ！」

「じょつ女子だとおおお！？」

「やばいよコレ、なに？運命？いやディステニー？キタよコレ。もうすごいよ。」

ガラッ

扉を開けてできたのは…

「かつ可愛い！なにあの子アイドル？やばいよ！」

「西本佳奈にしもとかなといます。よろしくおねがいます。」

ニコッ

「笑顔可愛いすぎ！あり得ないだろ！もう凶器だよ！ハアハア…って俺は変態か！」

「っつて佳奈ア！？」

ん？風我のヤツ知ってんのかあの子のこと？

「フウちゃん!？」

ってフウちゃん？フウちゃんって風我のことか？どついう関係なんだ？

「なんだ知り合いか？じゃあ西本、木戸の隣に座りなさいな。」

「ちよつと待てやああ！ここは運命で結ばれているこの俺の隣だろ！」

あつ…つい声にだしてしまった…

西本さんもクラスメイトもひいた目でこつち見てるよ…

「…まあ、なんだ。夢でも見てたんだよな。それでわけわかんないこと言っただけだよな、うん。」

先生ありがとう！でもみんなひいてる…そんな目で俺を見るな！クソオ…

「…とりあえず木戸の隣の席座って。」

「はい。わかりました。ひさしぶり。これからよろしくフウちゃん！」

「あ、ああ…」

なに溜め息ついてんだアイツ！神にでもなつたつもりか!？

くそっ、風我のやつ、昼休みに叩きのめしてやるからな…

そして関係を聞きだしてやる…

そしてそこで仲良くなって…グフフ

その1 コメディであるにもかかわらずこれはないだろ

「婚約者ア!?!」

昼休み、俺はいつも風我とメシを食う

そんなときついてきた西本さん、2人に関係を聞いてみた。

そしたらなんか

「婚約者だったんだ…」

婚約者!?!コンヤクシャ!?!将来、結婚することを誓った仲だあ!?!

「父さんはお前をそんな子に育てたおぼえはないぞ!」

「そだてられたおぼえもないぞ」

くそお、うらやましいいったらありやしない!

「なんだか御神くんって面白い人だね。」

おお…笑ってらっしゃる!この俺のことで!

「話を戻すぞ。」

「俺は結婚のことを親にきめられたくなかったんだ。それで婚約を解消して、今の関係は元婚約者ってこと。」

今は婚約者じゃないのか…よかった。

でも西本さんのほうはわざわざ転校してきたぐらいなんだから未練タラタラじゃないのか？

くそ！憎たらしい！

「でも私、フウちゃんのこと好きだったんだよ！なのに…ひどいよ…」

あっ、やっぱり好きなのか…

「でも俺は、君に恋はしなかった。」

「だったら、今からでも恋…して」

「残念だが俺には好きな人がいる。」

え！！女に全然興味なさそうなのに…

誰なんだろう…

でもこれで西本さんは…グフフ…

「ッ…！でも、それでも私はあなたをおとしてあげるんだから！」

…んだとおお！！！！！！

西本さんねばりすぎだろお！

「…ごめんな…」

…なんか楽しいメシの時間なのに、楽しい第1話であるのに…暗い
ぞ…

その1 コメディーであるにもかかわらずこれはないだろ（後書き）

コメディー小説なのにいきなり暗いです。

そして終盤っぽいよ…

御神「せめてここだけでもコメディーだぜえ!!」

「1話からいきなり失恋だよね、君（笑）」

「くっ。しかし、なんどでも蘇るさ!!」

「こんなうざいけどもヨロシク」

「2話からはきつと俺が主役つてとこみせてらるぜ!」

「あくまで馬鹿っぽい主役だけだ。」

その2 クラスに一人はなんかちょっと変わった奴っているよね

「やってられないぜ・・・」

俺ただいま朝の教室にて風我の愚痴を聞いている。

まあ寛大な俺はちゃんと聞いてやるつもりだった！

でもさ・・・

「朝学校行こうとしたら佳奈のやつまちぶせだぜ・・・」

なぜそれを俺に言う！

「嫌みか貴様！」

「なんで!?!」

なんでもくそもあるか！！！！！！秀囲気できずけや！

ということは無視することにする・・・

「それでさー弁当作ってきたとかいうんだ・・・って聞いてる？おーい?」

「うちのご探しに行こう!?!?!」

いきなり馬鹿なことを言ってきたのは内藤良夜。ないとうりょうや

こいつ顔がいいんだが欠点があるからモテナイ。

「・・・嫌だよ」

「なんで？」

「いないだろ、まず。いまどき餓鬼でも知ってるよそんなこと。」

「フッフ、甘いな。」

「こんどは何処で何買ってきた。」

「ヤ オクでツチノコ分布図とフリマで虫網。」

コイツの欠点。わけわからないものを買ってくる。

ツチノコ分布図ってまず発見されてないのになぜあるんだよ！

「・・・いくら？」

「ツチノコ分布図が10万、虫網三円」

「待て、オークションで買って10万!？」

「いや、最初は1円だったんだけど、他の誰かにとられるわけには
いかないと思ってな!」

欠点その2馬鹿。

オークションで1円を10万にするやつはきつとこいつぐらいでし

「エレベスト」

「やっぱり行かない・・・」

「なんで?????」

「遠いだろ!」

「でも、分布には(夜のエレベストの頂点)って書いてある」

「頂上まで行く気がオイ!」

「諦めたらそこで試合終了だよ」

「もう終了しているだろソレ!」

「仕方がない俺が行ってやるよ。テツロウ、後悔するなよ。」

「ヤッター」

風我も馬鹿だった・・・

なんでこんな奴を西本さん好きなんだよ・・・

その3 人間には表裏つてもんがある

「ツチノコはTDLにいる!!」

いきなりそういつて話にはいつてきたのは大塚ティーチャー

「それは本当ですか!?!」

「わかん。がいつてみる価値はあるんじゃないか?ボーイズビーアンビシャス!少年よ大志を抱け!」

「ウウツ…先生!一生ついで行きます!!」

「ありがとう我が教え子よ!!」

なんだこの小芝居…

あつ、因みにTDLっていうのは東京と名がつくのに千葉にある、鼠が駆け回るレジヤースポットだ。

…これで分かった?

「まあ、ガンバレヤ。早く席つけよー」

「みんなあゝ大塚の英語教室はじめるよお」

「キモイわ!!」

「じゃあ教科書p52〜p183までを…木戸

「読め」

「ページ数長いよ！先生、嫌です、拒否しま…」

「読め。」

「いや、だから…」

「読め！」

「はい！え〜と（鏡子は言った。「あ〜ん電気を消して、恥ずかしいわ」）ってなんじゃこりゃあ！……！！……！！……兄貴の官能小説じゃねーか！……！！」

「先生、教科書忘れました……」

「隣の人にかりてください。」

「悪い、教科書貸して……」

「貸したら結婚してくれる？」

「いや、それは無理。」

「なら貸さない。」

「……つーことなんで先生、べつの人に」

「読め。」

あれ？西本さんってこんなキャラだったけ？

でも表裏があるってのもイイナ…

その3 人間には表裏つてもんがある(後書き)

裏力ナ登場です

「人間って表裏があるんだよ」

御本人登場ですか！

それよりいくらなんでも変わりすぎじゃない

「しょうがないじゃない！ヒロインなのにこの前でれなくてストレスたまってるとんだから！」

それいつちやいます？

それよりこの裏のすがたで可愛いキャラ台無しですよ

むしろ怖いキャラですけど…

「…死ね…」

…すみません

その4 好きな人の頼みことは断れないものだよね

「一緒に帰ろうぜ!!!」

風我のヤツに西本さんはひつついてる。

つまり風我と一緒に帰るとラブラブを見せられるというわけだが・

「分かった。」

様子見のため了承した・・・

そして3人で歩いてるわけだが・・・

俺、凄い場違い!!!

2人が勝手に話しているわけで、なんか俺はみごろられてる。

2人の会話に割り込んでみたけど・・・

「それ、だめじゃね?」

「え?そうか?」

「そうかな・・・?」

変な空気作っちゃったよお!

俺駄目だ！！！！

「んじゃ、バイバイ」

風我のヤツと分かれ道で別れた

西本さんと2人つきり〜〜

つてつかれられない空気だ・・・

「ねえ・・・」

空気をぶち破って話してきてくれたよオイ。

「ん、ん、な、何かな？」

緊張しすぎだ俺ええええ！！！！

よし、落ち着こう、落ち着こう・・・

「何でフウちゃん振り向いてくれないのかな？」

それ、俺に聞きますかあ！！！！

「好きな人がいるからって言ってたじゃん・・・」

「うん、そうなんだけど・・・」

「なんでそんなこと俺に聞く？」

「親友って聞いたからなんだけど・・・ゴメン・・・」
「・・・・・・・・・・気まずっ！」

実際30秒もたってないだろうけど俺には1時間ぐらいに感じられたよ・・・

「まあ、いいんだけどさ・・・」

「あの、好きな人聞きだしてほしいんだけど・・・」

「え？でも・・・」

「駄目??？」

グハア！かいしんのいちげき！！御神に10000000のダメージ
イイイイ！

その子猫のような仕草は反則でしょう・・・

「うん、分かった、イイよ」

「ホント？アリガト！」

その笑顔も反則・・・俺もうフラフラ・・・

ん？

「聞き出してどうすんの？」

「それは勿論校舎裏に呼び出してランチ・・・話あおうと。」

「・・・そうですね・・・」

「あ、私ここで。バイバイ！」

はあ・・・

その4 好きな人の頼みことは断れないものだよね(後書き)

またも裏カナです

その5 作戦開始！（1回目）（前書き）

サボりすぎましたorz

その5 作戦開始！（1回目）

頼まれたことはやるべきだろ？

つてことで風我の好きな人を探すことにしたんだ。

「なあ、風我よ。」

「・・・なんかキモいな・・・」

「学校の女子でさ、誰がいいと思う？」

これで名をあげた女子が候補だな！

「・・・うちの女子ってブスぞろいじゃね？」

「え〜〜そうか？」

好きな人いるんだろ！？

何を言ってるんだ！血迷ったか？

・・・ハッ！まさか・・・

「お前ってさ、ブス専なのか！？」

「なんでだよ！」

ちがったか・・・

こいつは塾とか行っていないしな・・・

「じゃあ質問を変えるぞ。胸はでっかいほうがいいかな？ちっさいほうがいいかな？」

「無いほうがいい」

貧乳好き？いや、貧乳というか美乳？

「身長は高いといやだよな」

「身長とかはどうでもよくないか？すべてはバランスだよ。」

「なるほど・・・そういえば天然系っていいよな和むし」

「天然はウザイだろ・・・」

「いや、天然はいい！！天然だからこそそうまれる仕草が男の心をくすぐる！」

つて内藤おおおおおおお！お前何ちやつかり話し入っちゃつてんだ！

邪魔すんなよ！

「そもそもキツイ女というのは金を狙っていたり影で何してるかわからない。常に危険が付きまわってしまふ。しかし天然はそうゆう危険がない。常に安らげる、そういうのがりそうなのだよ。やはり・・・」

その5 作戦開始！（1回目）（後書き）

もともともっと違う話だったんですけど・・・
なかなかかけないのでやめました。

その6 ファンクラブに生まれた絆

ハアハアハア、可愛いなあかゝなちゃんハアハア…ふまれない…

お前誰だよって？西本かなファンクラブの会長の吉川だよ！

…え、聞いてない？聞いてください、くれないと泣いちゃうぞ…

まあいいや、今スト…ボディーガード中なのだ、静かにしてくれたまえ。

…お、かな様に告白だと！させるか！

「ちよつと来いお前」

低音の渋い声を出す俺はなかなかいけてるな。

「お前はファンクラブ会員ナンバー14番の藤井か。

勝手な告白はファンクラブの破つては為らない掟の1つだぞ。それを破るなど…」

「…実は僕、幼稚園から中学の途中まで彼女と同じクラスだったんですよ」

「羨ましい限りだな！」

「それで、転校してきた初日に話しかけたんですよ…」

「キィサアマア！！話しかけたどう！！」

「…そしたら…えつとどちらさまでしようか…っていわれて藤井ですっていったら…ああ、同じ学校にいたような気が…スミマセン同じクラスになったことないから覚えてませんでした…って…僕泣いてしまいました。」

なんと…切ない…

「僕、告白するためじゃなくて名前を覚えてもらったか確かめる為に呼び出したんです。」

「でもそれではわざわざ校舎裏に呼び出したのは？」

「…考えてもみてください、美少女に僕の名前覚えてますかと聞いた少年が」

覚えてないですといわれて泣き叫ぶ様を」

「覚えてもらってない前提かよ。」

「僕、影薄いですし…アハハ、死ねばいいのかな、ハア…」

うわぁ、卑屈だ。可哀想だ。

「…決めたぞお前が今日からファンクラブ副会長だ！！」

「え、いいんですか！！」

「ああ！！一緒に頑張ろう！！」

「はい！！」

その6 ファンクラブに生まれた絆（後書き）

ゴメンナサイ

「何を謝っているんだ作者。俺をださなかつたことか？」

更新が壊滅的なことと、この話のわけわかんないぶりにお詫び申し上げます。

「だよな。俺をださないからだよ、主人公であるこのオレオを。いや俺を。」

あと主人公が馬鹿でゴメンナサイ。

「馬鹿？違うな。天才だよ。」

お前もう黙れ。

「全く、これだから愚民は……」

うざくてすみません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2843g/>

ヤツを見ないで俺を見ろ

2010年12月30日03時52分発行